

群弓連だより

114号

平成29年1月

群馬県弓道連盟

発行人 鈴木康弘

新年を迎えて

群馬県弓道連盟 会長 鈴木康弘

あけましておめでとうございます。

今年一年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますことを願っています。

そして私たちの群馬県弓道連盟が弓道の普及振興に資するよう円滑に運営出来ますよう会員皆様のご協力をお願いいたします。

7月には、関東地域で持ち回りの行事で最も大きな「国体関東ブロック予選」が8年ぶりに群馬県で開催されます。大会のスムーズな運営はもとより、地元開催の利を生かして、成年男子・成年女子・少年男子・少年女子の4部門が愛媛県で開催される本国体へ参加できますようご支援とご協力をお願いします。

また、全弓連レベルでは、29年度から公認審査員・公認審判員・公認講師の制度が始まります。詳しくは別掲しますが、結果的には指導的立場の先生方の更なる勉強が必要となるようです。これら制度では公認スポーツ指導者資格が必要となりますが、群馬県では多くの先生方がすでに資格を有しているので大きな問題はないことでしょう。先生方が新たな公認資格取得のための勉強を通じて弓道に関して再発見をすることで群馬の弓道の発展に寄与できることに期待をします。

また、3頁の「地方審査委員候補者 実技審査 実習要領(案)」に有りますように、この実習によって審査委員の審査眼の向上と統一が図られることでしょう。言い換えれば、指導者の指導内容と指導責任が各支部における日常の稽古に反映されることとなります。全弓連の方針に則した伝達内容などの徹底が今まで以上に重要視されることで、指導的立場の「先生」は当然ですし、新人を含める後輩たちから「先輩」と呼ばれる会員の多くに「言動の一致」が必要とされることでしょう。

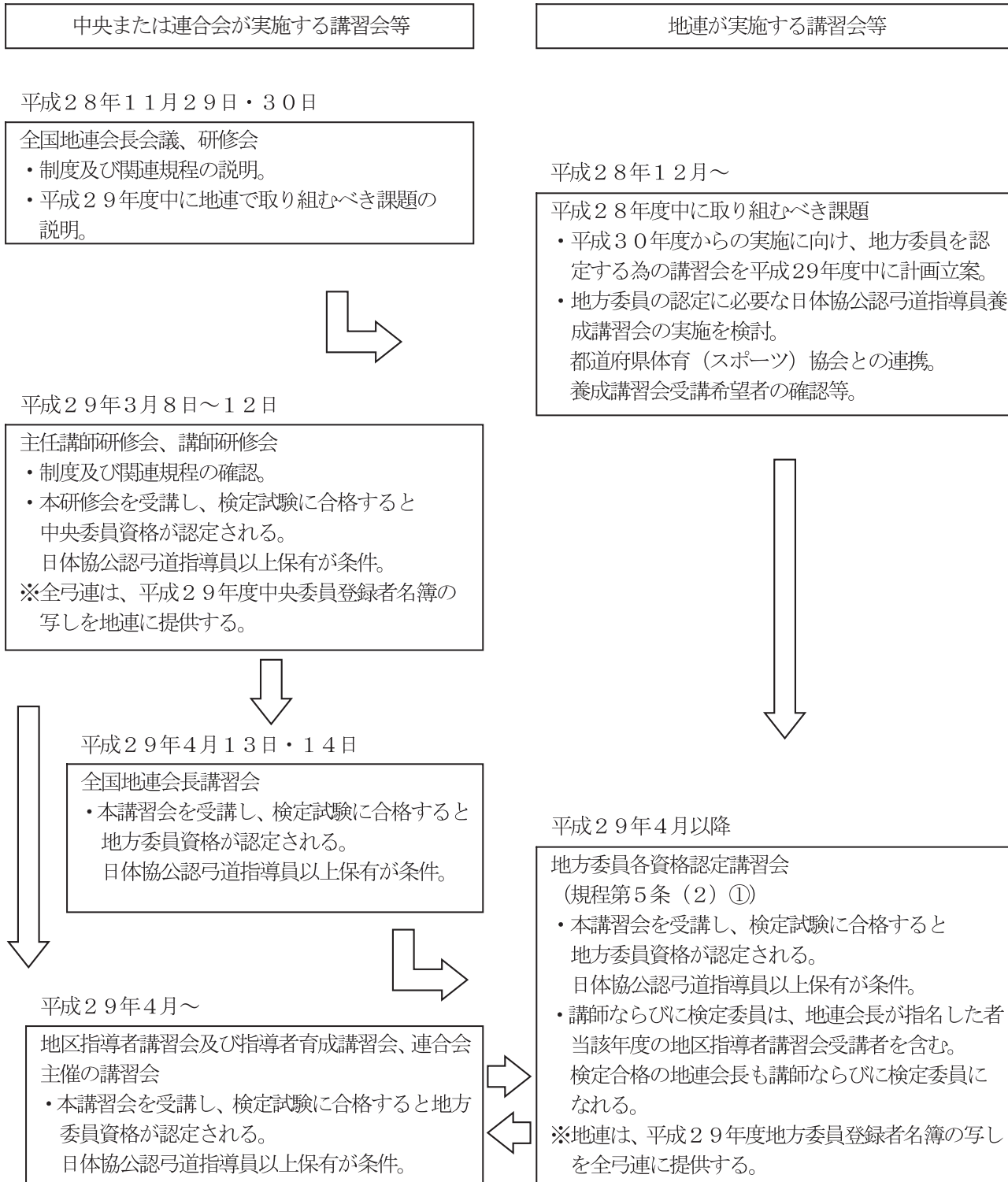
昔から、「実際にやって見せられるのが指導者本来の姿である」と云われています。私を含め多くの皆様が、日頃の稽古ではついつい「自分に甘い稽古」になりがちですが、弓道本来の修養道的要素が再認識され、弓道全体のレベルアップに繋がる良い機会なると確信します。

最後に重ねてとなりますが、会員の皆様方の御健勝と更なる向上を祈念して新年の言葉とします。

会長挨拶、もくじ	・・・ 1	インターハイ大会	・・・ 5
公認資格制度 発足期の関連図	・・・ 2	第35回関東高等学校個人弓道選手権大会	・・・ 6
地方審査員候補者実習要領(案)	・・・ 3	一般 全国・関東大会結果	・・・ 7
第13回中学生大会	・・・ 4	高橋静雄先生範士拝受記念祝賀会、青木トシ子先生	
第60回関東高等学校弓道大会、第61回		「黄綬褒章」賜る、編集後記	・・・ 8

公認資格制度 発足期の関連図

【基本用語】 中央委員：すべての審査委員、審判委員、講師を担当できる。
 地方委員：連合会及び地連での審査委員、審判委員、講師を担当できる。



※全弓連から新年度開始前に、日体協公認弓道指導員、上級指導員、コーチ資格者名簿を地連に送付するので、地方委員各資格認定講習会受講者の資格の有無を確認すること。

地方審査委員候補者 実技審査 実習要領 (案)

当初運用上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 資格認定（更新）講習・地区指導者講習会・指導者育成講習会・伝達講習会において審査関係規程等の研修と検定試験を受けたうえ、実際の審査終了後、審査委員長を座長として検討実習を行うことで実技講習とする。 H30 年度審査に当たる予定者について、H29 年度の審査において 1 回以上の検討実習を実技講習とする。 H31 年度の新たな審査委員について、H30 年度内に審査関係規程等の研修と検定試験に合格していれば、審査実施後の検討実習に参加したことによりその審査から資格を与えることとする。
審査実習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 級位から式段までの低段者に関しては、判断が分かれることも少なくないが、初心者であるほど合否の差は当人たちにとって大きなショックになりかねないことを、肝に銘じておく必要がある。 あまりばらつかない判断ができればよいが、審査委員により経験が異なるため、検討・研究を重ねより確かな判断ができるようになることを目指さねばならない。 なお、受審者の人格を尊重する態度を堅持し、検討研究に当たっては審査委員同士の審査眼を云々言わない等に留意する必要がある。

審査検討実習事例 審査員 順不同

区分	No.	受審者名	A	B	C	D	E	合	否	検討事例をもとに、審査眼向上のための検討・研究を行って研修とする
無指定 初段	1		初	初	初	初	初	初	初	
	2		2	1	1	2	1	1	1	なぜ判断が分かれたのか検討・研究
	3		1	初	初	1	初	初	初	
	4		3	2	1	2	2	2	2	なぜ判断が分かれたのか検討・研究
	5		初	1	初	初	1	初	初	
初段	6		○	○	○	○	○	5	0	
	7		○	○	○	○	×	4	1	少数意見の検討・研究
	8		○	○	×	○	×	3	2	なぜ判断が分かれたのか検討・研究
	9		×	○	×	○	○	3	2	なぜ判断が分かれたのか検討・研究
式段	10		○	○	○	○	○	5	0	
	11		○	○	×	○	○	4	1	少数意見の検討・研究
	12		○	○	○	○	○	5	0	
	13		○	○	○	○	○	5	0	
	14		×	×	×	×	×	0	5	
参段	15		○	○	○	○	○	5	0	
	16		×	○	×	×	×	1	4	少数意見の検討・研究
	17		○	○	○	○	○	5	0	
	18		×	×	○	×	×	1	4	なぜ判断が分かれたのか検討・研究
	19		○	×	×	×	○	2	3	なぜ判断が分かれたのか検討・研究
四段	20		○	○	○	○	×	4	1	少数意見の検討・研究
	21		×	×	×	×	×	0	5	
	22		×	×	×	×	×	0	5	
	23		×	○	×	×	×	1	4	なぜ判断が分かれたのか検討・研究
	24		○	○	○	○	○	5	0	
五段	25		×	×	×	×	×	0	5	
	26		×	×	×	×	×	0	5	
	27		○	○	○	○	×	4	1	少数意見の検討・研究
	28		○	×	×	×	×	1	4	少数意見の検討・研究
	29		×	×	×	×	×	0	5	
	30		×	×	×	×	×	0	5	

すべての票が一致するのは理想であるが、反面複数で審査する意味がなくなる。しかし、統一基準で実施している以上、判断傾向に大きなずれが出ることは避けたい。

少数意見には、大切な視点があるか、見誤り等の問題が隠されていると判断し、謙虚に検討したい。

すべての事例を検討する必要はない。

審査委員長・委員から取り上げられた数件についての、十分な検討実習が審査眼の向上のために重要である。

第13回全国中学生弓道大会

平成28年8月20日から21日まで、中央道場で行われた『第13回全国中学生弓道大会 JOCジュニアオリンピックカップ大会』。全国41都道府県、四百余人の全国選抜選手により中学日本一が競われました。

群馬県選手団は団体個人合わせて男子4名女子4名、監督役員5名の13名で、前日の公開練習から参加いたしました。

大会初日の開会式前には明治神宮にお参りし必勝を祈願いたしました。開会式の後団体・個人の子選が行われました。

団体女子は1回戦3中、2回戦3中の計6中で予選敗退。個人女子も8射3中で予選通過ならずでした。

団体男子、1回戦4中と厳しいスタートでしたが、2回戦は皆中者が2名の計10中の合計14中、10位タイで決勝トーナメントに進出しました。決勝進出は第1回・第5回について3度目、実に8年ぶりの快挙です。

団体男子は1回戦3中、2回戦3中の計6中で決勝進出、昨年に続き2年連続の予選通過です。

翌日に行われた決勝戦。団体は強豪の始良市立重富中学校（鹿児島県）と競い、8中対7中の僅差で敗退しました。この重富中が団体優勝となりましたので、優勝チームとほぼ互角の戦いできたことは胸を張って誇れることだと思います。

射詰で行われる個人男子決勝、1本目は通過（16人中12人通過）しましたが続く2本目で外してしまいました。佐藤選手は団体選手も兼ねていて、団体予選・決勝と個人予選で20射17中（皆中2回）の大活躍でした。将来が楽しみな選手です。なお男子決勝は射詰8本目でなお3人が残る白熱の試合、八寸的に変えた9本目で勝負がつくというハイレベルな戦いでした。全国一流選手の練度の高さに驚嘆しました。

他県の出場チームの多くは、学校部活動による県予選を通過した子ども達です。群馬県は選手層の薄さというハンデを背負っての戦いです。しかし我が選手団の射技・体配はけして見劣りするものではありません。限られた練習量と環境で成果を出しています。これは日々の弛まぬ各支部・学校の指導の賜物と感謝いたします。

11月26日に行われた「第40回群馬県小学生総体【弓道競技】」と「第10回関東地連主催群馬県中学生弓道大会」では小中合わせて70余名が参加するなど、確実にジュニア弓道人口は増えています。この中から必ず将来群馬県を代表する選手が現れるでしょう。

これからも応援をよろしくお願いいたします。

群馬県選手団

【団体男子】佐藤 月彦・榎原 彩斗・金光 陸斗・新井 優斗

【団体女子】荒木 楽夏・増田 英里奈・加納 未祐・小田橋 佳奈

【個人男子】佐藤 月彦

【個人女子】荒木 楽夏



平成28年度 第60回関東高等学校弓道大会

1. 期 日 平成28年 6月3日(金)～6月5日(日)
2. 会 場 栃木県体育館本館特設弓道場
3. 参加数 男女各県代表の44チーム
4. 成 績

◎団体

男子予選 前商11中, 高崎8中, 健大高17中, 前東16中, 市前橋15中, 大泉10中
健大高・前東が予選通過(予選通過は16中以上の16チーム)

女子予選 市前橋11中, 四ツ葉11中, 健大高13中, 高女18中, 前女12中, 育英13中
高女が予選通過(予選通過は14中競射3/4)

男子団体決勝トーナメント

1回戦	前東	7	-	7	増穂商業(山梨)	[1-1	、1-2]
	健大高	9	-	8	山北(神奈川)		
2回戦	健大高	10	-	10	向の岡工業(神奈川)	[3-1]	
準決勝	健大高	8	-	11	清真学園(茨城)	健大高は第3位	

女子団体決勝トーナメント

1回戦	高女	6	-	4	富士河口湖(山梨)		
2回戦	高女	10	-	8	大宮光陵(埼玉)		
準決勝	高女	7	-	7	鹿沼(栃木)	[2-2	、1-2] 高女は第3位

◎個人

男子 茂田一希(前商), 小澤祐輔(健大高) 8射7中
8位決定のための遠近競射に進出(15人) 順位なし

女子 阿部萌子(前女) 8射7中(17人)
射詰1中の10人による3～8位決定のための遠近競射に進出 順位なし

平成28年度 第61回インターハイ結果

1. 期 日 平成28年8月3日(水)～6日(土)
2. 会 場 鳥取県立武道館特設弓道場
3. 参加数 団体: 男女各県代表の48チーム
個人: 男女各県代表の96人

男子団体

前橋市立前橋高校	予選					競射
1 野口 唯斗	×××○	1	}	8中 予選落ち (予選通過は12中)		
2 柳井佑一朗	××○×	1				
3 鈴木 溪吾	○○○×	3				
4 神道 友樹	○×××	1				
5 中村 巧	○×○×	2				
6 塩澤 大洋						

女子団体

高崎女子高校	予選					競射
1 石井 碧	××××	0	}	5中 予選落ち (予選通過は10中競射 6/8)		
6 加部 瑞季	×××○	1				
3 黒澤 香菜	××××	0				
4 林 あかり	○××○	2				
5 高田万里奈	○○××	2				
2 今井 未侑						

男子個人

石川 隼矢 (前 東3年) ○○×○ 3 予選通過 準決勝 ××○×
野口 唯斗 (市前橋2年) ○××○ 2 予選落ち

女子個人

予選
五畷 彩乃 (吾 妻3年) ×○○○ 3 予選通過 準決勝 ○○○○
決勝 ○○○○ ○×
決勝5本目からは八寸的

第2位入賞 (インターハイでの女子個人入賞は3年ぶり)

山田 真緒 (市前橋2年) ○×○○ 3 予選落通過 準決勝 ○○○×
決勝 ○× 順位なし

平成28年度 第35回 関東高等学校弓道個人選手権選抜大会結果報告

- 期 日 平成28年9月10日 (土) ~ 11日 (日)
- 会 場 明治神宮至誠館第二弓道場
- 参加数 (男子) 102人 (女子) 102人
- 競技方法 予 選 : 各自4射を行い, 男女とも3中以上を通過とする。
準決勝 : 各自4射を行い, 男女とも皆中者を通過とする。(但し, 決勝進出者が8名に満たない場合は, 3中者より補充する。)
決 勝 : 準決勝通過者により射詰で順位を決定する。
- 成 績 男子予選通過者 4射3中以上 45名
女子 " " 30名
男子準決勝通過者 4射4中者 13名
女子 " " 2名

(男子)	予選	準決勝	決勝 (5本目から8寸的使用)
設 樂 知 暉 (伊 工2年)	××××0中	予選落ち	
成 田 偉 琉 (健大高2年)	×○××1中	予選落ち	
柳 井 佑一朗 (市前橋3年)	×○○×2中	予選落ち	
馬 場 司 (市太田3年)	×○×○2中	予選落ち	
田 中 優 (勢 農2年)	○×××1中	予選落ち	
石 川 隼 矢 (前 東3年)	○○○×3中	○○○○4中	○○○○○○○×× 2位入賞
太 田 優 真 (前 工2年)	××○○2中	予選落ち	
多賀谷 希 (伊 工3年)	○○○○4中	○○×○3中	準決勝落ち
茂 木 恭 輔 (県 央2年)	×○×○2中	予選落ち	
小 向 雄 太 (市太田3年)	×××○1中	予選落ち	
小 暮 康 太 (大 泉3年)	××○×1中	予選落ち	
佐 藤 天 彦 (太 田2年)	×○××1中	予選落ち	
(女子)	予選	準決勝	決勝
山 田 真 緒 (市前橋2年)	○×○×2中	予選落ち	
笠 原 梨 花 (前 商2年)	×××○1中	予選落ち	
鈴 木 純 菜 (渋 女2年)	×××○1中	予選落ち	
五 畷 彩 乃 (吾 妻3年)	○○××2中	予選落ち	
新 井 佑 奈 (四ツ葉2年)	××○×1中	予選落ち	
南 雲 友紀菜 (健大高3年)	○×××1中	予選落ち	
高 橋 瑞 帆 (前 東2年)	××○○2中	予選落ち	
柴 田 彩 乃 (前 南2年)	××××0中	予選落ち	
野 本 英 美 (藤中央2年)	××○×1中	予選落ち	
栗 野 紋 歌 (前 西2年)	○×○○3中	××××0中	準決勝落ち
長 野 宙 (前 女2年)	×××○1中	予選落ち	
今 井 思 未 (市前橋2年)	××○×1中	予選落ち	

群馬県高体連弓道専門部 公式記録

作成者 弓道専門部副委員長 (広報担当) 前橋南高校 居上康昭 e-mail : gunkyumi@yahoo.co.jp

全国、関東大会結果

全日本勤労者弓道選手権大会

平成28年6月10日～12日 愛媛県松山市

SUBARU・A		1回戦	12射8中	2回戦	12射7中	SUBARU・B		1回戦	12射5中
藤林路浩			4射4中		4射3中	荒川 貢			4射2中
田崎祥也			4射1中		4射0中	関 俊一			4射0中
小俣 充			4射3中		4射4中	前野嘉裕			4射3中

全日本弓道選手権大会

平成28年9月16日～20日 全日本弓道連盟中央道場

小俣 充	〇〇722	〇×698	1420点	27位
伊藤 晃	××688	〇〇708	1396点	69位
中橋 紀子	〇〇712	〇×696	1408点	21位
荒瀬 由美	〇×695	〇×689	1384点	56位

国体成年男子

平成28年10月7日～10日 岩手県奥州市

〇遠的	群馬県	127点:15位	〇近的	群馬県	24射19中
前田 彩		54点	前田 彩		8射 8中
伊藤 晃		30点	伊藤 晃		8射 5中
鈴木啓太		43点	鈴木啓太		8射 6中

全日本遠的選手権大会

平成28年10月21日～23日 全日本弓道連盟中央道場

田中 義裕	×××〇×〇	6射2中	青木 敏子	××××××	6射0中
勅使川原守	〇×〇×××	6射2中	櫻井 節子	××××××	6射0中

ねんりんびっく長崎 弓道交流大会 長崎県島原市

平成28年10月16日・17日

群馬県	40射8中				
1 古尾谷 茂	8射4中	2 古尾谷洋子	8射0中	3 近藤 清宏	8射2中
4 岩本ふさ子	8射2中	5 岩本 敬一	8射0中		

関東ブロック大会 山梨県甲府市

平成28年8月21日

成年男子	10点 2位	国体出場	成年女子	6点 8位	
16中	4位:4点	136点 3位:6点	14中	6位:3点 98点 6位:3点	
	近的	遠的		近的	遠的
前田 彩	8射 7中	64点	米持奈々	8射 5中	24点
伊藤 晃	8射 3中	27点	原明日香	8射 3中	15点
鈴木啓太	8射 6中	45点	赤石知代	8射 6中	59点

少年男子 9点 4位

19中 5位:4点 117点 4位:5点

近的

遠的

野口唯斗 8射 6中

24点

石川隼矢 8射 7中

39点

梶塚祐輝 8射 6中

54点

少年女子 5点 7位

14中 7位:2点 80点 6位:3点

近的

遠的

南雲友紀菜 8射 3中

21点

粕川紀香 8射 4中

28点

西山乃愛 8射 7中

31点

第57回関東地域弓道選抜選手権大会 茨城県水戸市

平成28年9月11日

有段者の部

武井美栄子 6射3中

山田悦子 3中

吉川剛 4中

前田彩 6中 個人第3位 全弓連賞

鈴木啓太 5中

称号者の部

眞下眞弓 6射5中

小俣 充 3中

伊藤 晃 2中

堀越 勉 5中

中橋紀子 4中

■高橋静夫先生範士拝受記念祝賀会

高橋静夫先生は6月に全弓連より範士の称号を授与されました。

県連と伊勢崎市弓道協会ではこれを祝い、10月16日伊勢崎プリオパレスに於いて県内外から145名の出席者のもと祝賀会を開催しました。

ご来賓のお祝辞の中で、国体の監督を長年にわたり務めた先生は、常に穏やかなお姿で選手からの絶大なる信頼を得て、上位入賞を果たしその指導力に秀でていらっしゃるエピソードが披露されました。

先生と記念写真を撮りながら会は和やかに華やかに進み、先生のご健康を祈念しお開きとなりました。



■青木トシ子先生「黄綬褒章」賜る

錬士六段青木トシ子先生は、近代こけし全国シェアの約7割を誇る群馬県で創作木人形作家の青木蓼華(りょうか)という画号をお持ちです。

62年間に渡り近代こけし製造に携わり、日本画特有の気品、優雅、優しさ、温もりなど醸し出す作品で内閣総理大臣賞をはじめ数々の表彰歴があります。

10月23日渋川プリオパレスに於いて祝賀会が開催され弓道関係者も多数出席いたしました。



編集後記

群弓連だより第114号をお届けいたします。

謹賀新年。今年は酉年、各年代それぞれお健やかで、飛躍の年となりますようご祈念申し上げます。

広報部会：金山正一、城代富美江、高木正博、斎藤昌之、荒瀬由美(全弓連)